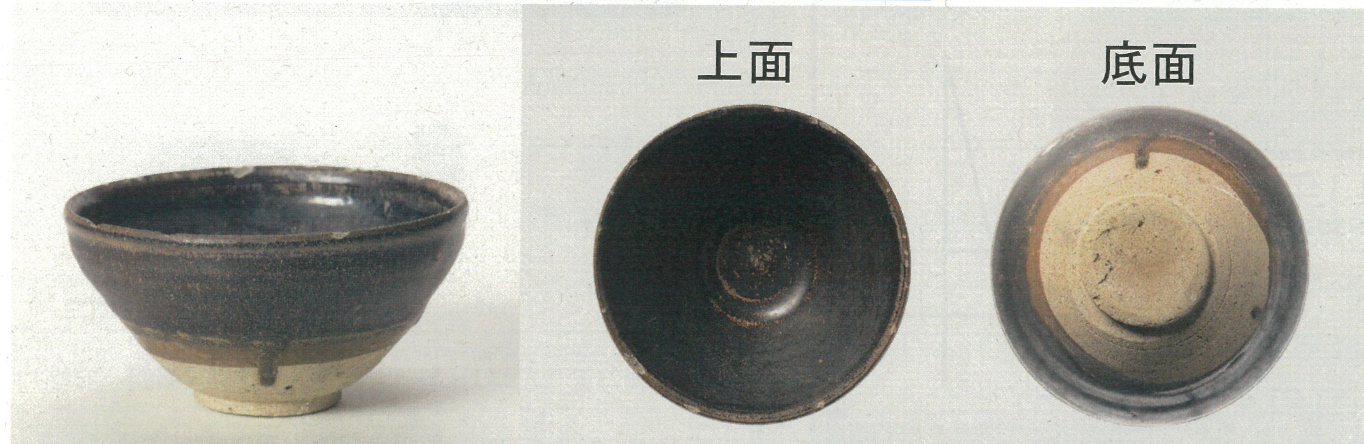


## 天目について



上面

底面

森原下ノ原遺跡で出土した天目

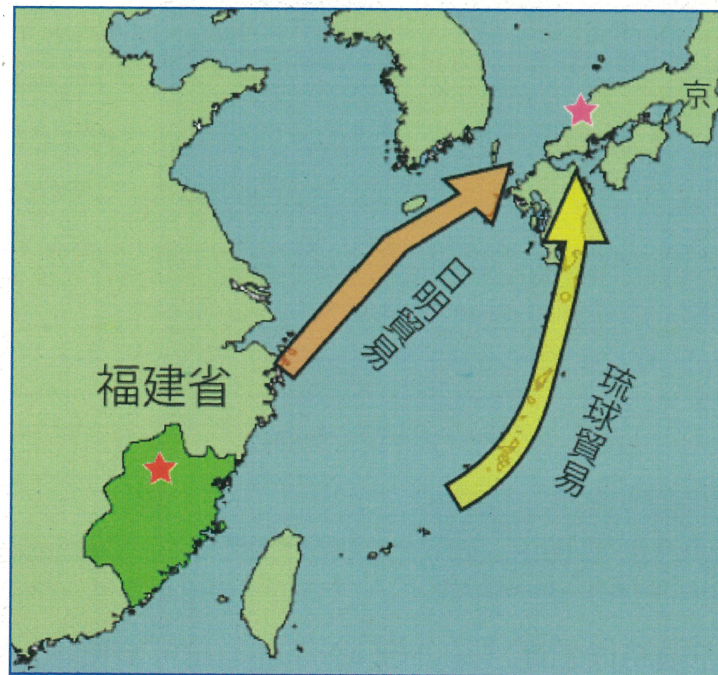
今年度の森原下ノ原遺跡発掘調査において、完形の陶器碗が1点出土しました。この碗は「天目（てんもく）」と呼ばれるもので、中国から日本に輸入され、お茶を飲む碗として全国に広がっていきました。

本遺跡で発見された天目は、形や釉薬の特徴から、14世紀末～15世紀初頭頃に製作されたと考えられ、お茶について記された書物には「はいかつぎ（天目）」として記録されています。中国の福建省（ふっけんしょう）で製作され、琉球貿易や日明貿易を通じてもたらされたものであると推測されます。

この天目の内面には茶せんの痕のような傷があり、たくさん使い込まれたものである可能性があります。中世の江の川周辺にも、茶の湯文化が広まっていたのでしょうか。



天目の出土状況



## 編集・発行

【島根県教育庁埋蔵文化財調査センター】

〒690-0631 松江市打出町 33

TEL : 0852-36-8608

FAX : 0852-36-8025

E-mail : maibun@pref.shimane.lg.jp

https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/

【江の川発掘調査事務所】

江津市渡津町 74-5 番地

TEL 0855-54-1620

FAX 0855-54-1621



令和4年は  
まいぶんセンター開設30周年！

# 森原下ノ原遺跡第4回現地説明会資料



中国太郎くん

本日はお越しいただきありがとうございます！

令和3年10月9日

島根県埋蔵文化財調査センター

## はじめに

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターでは、国土交通省中国地方整備局からの委託を受けて、平成29年度から一級河川江の川直轄河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を行っています

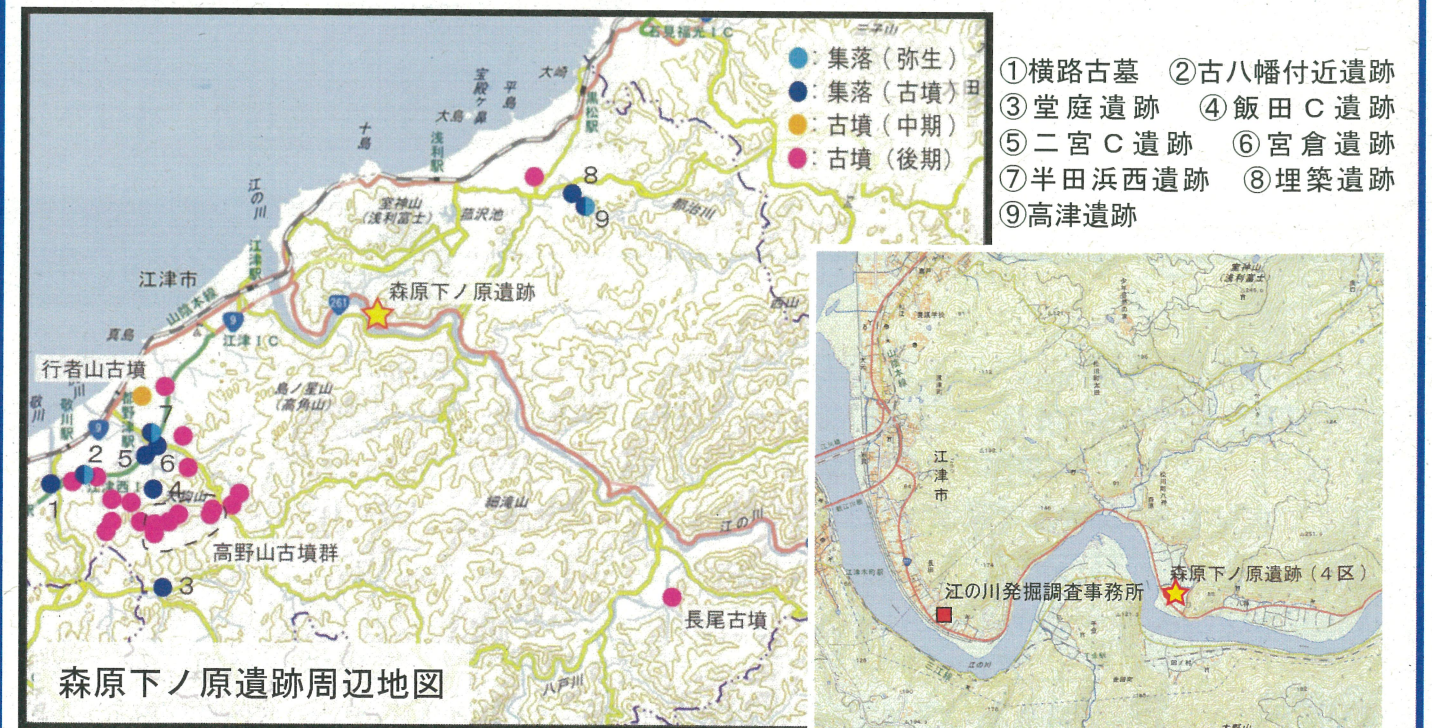
今回は、森原下ノ原遺跡の現地説明会を開催し、今年度で3年目となる発掘調査の成果を皆様にご覧いただきたいと思います。

なお、調査にあたってご理解、ご協力をいただきました地元の皆様や、国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所、江の川流域治水推進室、江津市教育委員会をはじめとする関係各機関の皆様方に改めてお礼申し上げます。

## 森原下ノ原遺跡について

森原下ノ原遺跡は江津市松川町八神地区に所在し、江の川河口から約5km上流の右岸、標高約8mの自然堤防上に位置しています。一昨年からの継続調査で、縄文時代中期前半（約5,500年前）から江戸時代前期（17世紀）にわたる複合遺跡であることが分かっています。

今年度の発掘調査では、江の川で過去に発生した洪水・氾濫によって堆積した土の中から、勾玉・管玉・石帯(せきたい)・灰被天目(はいかつぎてんもく)などが出土しました。



- 集落(弥生)
- 集落(古墳)
- 古墳(中期)
- 古墳(後期)
- ① 横路古墓
- ② 古八幡付近遺跡
- ③ 堂庭遺跡
- ④ 飯田C遺跡
- ⑤ 二宮C遺跡
- ⑥ 宮倉遺跡
- ⑦ 半田浜西遺跡
- ⑧ 埋築遺跡
- ⑨ 高津遺跡

森原下ノ原遺跡周辺地図

## 遺跡は河の中にあった？



遠景写真（東より）



大規模な土石流の痕跡（水色部分）

これまでの発掘調査で、現在は森原下ノ原遺跡の西側を流れている江の川が、過去には遺跡のある東側寄りに流れていたことがわかっています。

今年度発掘調査を行った4区は、かつてはほぼ全面が江の川の中にあったことが分かりました。



現在調査中

森原下ノ原遺跡全景写真

## 森原下ノ原遺跡はどんな遺跡？

森原下ノ原遺跡では、これまでの発掘調査において色々な発見がありました。その中でも、古墳時代前期（約1600年前）の後漢鏡（ごかんきょう）や石釧（いしくしろ）、中世の貿易陶磁器など、他の地域との交易によって運び込まれた品々が目立っています。また、出土遺物の中には高坏・ミニチュア土器・土製勾玉などの、祭祀で使用されるものが沢山ありました。

このことから森原下ノ原遺跡は、かつて日本海の海上交通と江の川の河川交通をつなぐ拠点としての役割を担っていた、重要な遺跡であると考えられます。各時代の様々な富や物資がこの場所に持ち込まれ、江の川上流部や日本海沿岸の地域へ運ばれていったのではないのでしょうか。また、本遺跡の近くには「人麻呂渡（ひとまるわた）し」と呼ばれる奈良時代の歌人・柿本人麻呂（かきのもとのひとまる）が江の川を渡ったとされる伝承地があります。想像をたくましくすれば、古くから江の川を渡るための要所でもあり、水際で祭祀が行われていた場所でもあったのかもしれません。

## 発掘で見つかったもの



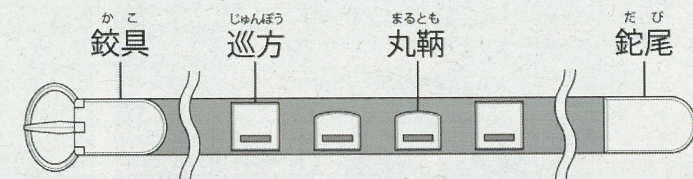
かつせきせい まがたま 滑石製勾玉（左端）  
へきぎょくせい くだたま 碧玉製管玉（中央）  
せきたい 石帯（右端）

今年度の発掘調査でも、多くの遺物（土器や石器など）が見つかりました。そのなかでも珍しいものは、古墳時代中期（約1600年前）の滑石製勾玉、古墳時代後期（約1500年前）の碧玉製管玉、奈良時代（約1300年前）の石帯、15世紀（約600年前）の灰被天目です。

これらの遺物は作られた時期が異なりますが、すべて江の川の過去の洪水で堆積した土の層から出土しました。

### 【石帯（せきたい）】

石帯とは、奈良時代の官人が身に付ける革製ベルトに付ける石の飾りです。本遺跡では、石帯の中でも「丸鞆（まるとも）」と呼ばれる丸い形をしたものが出土しました。遺跡の周辺に、官人が在中する施設があったのでしょうか？



【古代革製ベルトの概略図】



石帯出土状況